

2-(1) 法人本部

I. 2023（令和5）年度事業の概要

学校法人東京国際大学は、「公德心を体した真の国際人の養成」を建学の精神に掲げ、東京国際大学、東京国際大学付属日本語学校、一橋学院早慶外語という三つの設置校を通じて教育事業を展開している。

学校法人の経営視点としては、教育の質を担保しながら、学納金中心に収入を最大化し、経費支出をコントロールすることで、財務状況の健全化を達成し、それを長く維持することが重要課題である。

(1) 東京国際大学

2023（令和5）年9月 本学校法人における長期経営戦略上の重要投資としての意味を持つ池袋キャンパスを開設した。同時点で大学全体の外国籍学生（1,710名）の内約8割（1,361名）が池袋キャンパスで学んでおり、さらに国際社会から招聘した教員・研究員も合わせて極めて国際色豊かな教育環境を創出している。

池袋キャンパスは学生募集面においても新たなアイコンとなり国内外を問わず志願者確保に大きく貢献し、関係学部の入学定員充足率が好転した。

一方、川越キャンパスにおいては、キャンパス運営の最適化を図るため人間社会学部の第1キャンパス移転を決定した。これは大学運営の効率化と経費節減の実現のみならず、同学部が第1キャンパスに加わることで新たな教育機会の展開と学生生活の満足度の向上を目指すものである。

(2) 付属日本語学校

近年ベトナム、韓国等の伝統的市場からの学生獲得が苦戦するなか、ミャンマー、ネパール等の新規市場開拓が成功し、コロナ禍前の70%レベルまで学生数を回復できた。今後は東京国際大学への進学者を増大させるための新制度を制定し2025年度より実行する。

(3) 一橋学院早慶外語

18歳人口減少とコロナ禍の影響が長引き、予備校業界にとって厳しい市場環境が継続する中、当校は広告費の削減や伝統的な高卒生コース、高校生コースの授業の見直しを行い財務体質の改善を図る一方で、受験生の個別対応の強化と将来に繋がるメディカルコネクト事業の推進に注力し、合格実績を上げている。

II. 事業項目

1. 組織・体制

(1) 東京国際大学人間社会学部 川越第1キャンパス移転

2024（令和6）年2月移転。4月より第1キャンパスで授業開始

(2) 東京国際大学 商学研究科 社会人学生向け土日開講プログラム 池袋キャンパス移転

2024（令和6）年2月高田馬場サテライトからの移転。4月より池袋キャンパスで授業開始

2. 施設・設備

(1) 東京国際大学池袋キャンパスの建設

2023（令和5）年5月末竣工、同年9月開校。管財登録の完了は2024年1月。

3. 財務

(1) 資金運用

金融資産は現預金にて保持

2023年5月 池袋キャンパス建設費用残額 大成建設に支払い

2023年9月 私学事業団への借入金元本の返済開始

(2) 修学支援制度対応

文部科学省向け中期財務計画提出準備

2-(2) 東京国際大学

I. 2023（令和5）年度事業の概要

東京国際大学は「公德心を体した真の国際人の養成」を建学の精神に掲げ、建学時からの教育目標である「Vision, Courage, Intelligence を身に付けた人材づくり」を具現化するために、「スポーツの東京国際大学」「英語力の東京国際大学」を柱とした教育事業展開を強力に推進している。

新型コロナウイルス感染症の影響を受けていた過年度までの状況から脱していくべく、対面を中心とした授業運営を行うとともに、スポーツ系部活動などの課外活動や留学派遣についても平常化を進めた。学生募集においては、対面のオープンキャンパスを中心に受験生・保護者との接点拡大に努め、入試においても会場実施を軸としつつ、首都圏外の受験生を対象としたオンライン面接や在宅での CBT 入試方式も併用することにより、広域での志願者・入学者の確保を図った。

「スポーツの東京国際大学」に関しては、最高レベルの施設環境のもと、世界レベルの指導陣により展開される強化クラブ事業を中核に据えている。アスリート学生の学業面の支援体制は、人間社会学部のスポーツ 2 学科が中心的役割を担いつつ、全ての学部で受入を行っている。2023（令和 5）年 5 月時点の体育会系クラブ所属学生数は 1,057 名、全学部所属学生の約 16%にのぼった。

「英語力の東京国際大学」に関しては、大学の更なるグローバル化を目指し多様な施策を展開している。2014 年度（平成 26 年度）にスタートした英語で学位取得可能な「イングリッシュ・トラック・プログラム（E トラック）」には、2023（令和 5）年 10 月時点で世界 76 ヶ国から 1,596 人の学生が在籍（留学生の出身国・地域の過去からの累計は 110 を超える）、キャンパスのグローバル化に大きく貢献している。英語ネイティブ語学教員組織グローバル・ティーチング・インスティテュート（GTI）には、約 50 人を擁し、姉妹校ウィラメット大学におけるアメリカン・スタディーズ・プログラム（ASP）留学プログラムとの連動等、英語教育指導体制の強化に取り組んでいる。ASP 以外にも ISEP 交換留学をはじめ多様な留学プログラムを拡充し、学生の多様な留学ニーズに対応している。

本学教育事業基盤については、商学部経営学科、人間社会学部福祉心理学科の定員増が認可を受け、2022（令和 4）年度から 100 名の入学定員増となったと同時に、データサイエンスに強みを持つ即戦力ビジネス人材を育成することを目的として、商学部データサイエンスコース・グローバルデータサイエンスコースを設置した。さらに、人間社会学部人間スポーツ学科およびスポーツ科学科の定員増が認可され、2023 年度から 25 名の入学定員増となったことにより、全体の収容定員としては 7,260 名を数え、建学の精神である

「公德心を体した真の国際人の養成」に立脚した教育・啓蒙活動を推進している。また、日本文化研究所では、文化講演会の開催等、日本文化を核とした国際人養成教育・公德心教育を展開している。

副都心池袋に本学のグローバル化教育の機能を集約した都市型キャンパスを開設した。2020（令和2）年10月の土地引渡しから順調に工事を進め、2023（令和5）年9月に開校。

II. 事業項目

1. 教育内容の充実

(1) 「スポーツの東京国際大学」の推進

実施事項：	強化クラブ及び人間社会学部スポーツ2学科を軸としたスポーツ振興。
事業内容：	● 本学強化スポーツクラブは、最高水準の指導者、最高水準の施設環境のもと、学生競技における最高レベルの成果達成を追求し、そのなかで学生の全人格的成長を促す。 ● サッカー部、女子サッカー部、駅伝部、ウエイトリフティング部、硬式野球部、女子ソフトボール部、ゴルフ部、硬式庭球部、アメリカンフットボール部、剣道部、チアリーディング部、アーチェリー部を強化スポーツクラブに指定。 ● 17万㎡（東京ドーム4個分）の坂戸キャンパス総合グラウンドはプロ仕様の施設を完備している。 ● 強化クラブ拡充に呼応して、アスリート学生の学業面での専門性向上を図るため、人間社会学部に人間スポーツ学科、スポーツ科学科を設置している。

(2) 「英語力の東京国際大学」の実践

① イングリッシュ・トラック・プログラム（Eトラック）拡充

実施事項：	英語で学位取得が可能なEトラックを学部・大学院に設置、世界各国から留学生を受入れキャンパスのグローバル化を推進。
事業内容：	● 学部では、2014（平成26）年度より経済学部及び国際関係学部横断でEトラックを設置、「Business Economics Major」及び「International Relations Major」の二主専攻（Major）を設置した。 ● また、2019年秋学期には、第三の主専攻（Major）とし

	て「Digital Business & Innovation Major」を新設、2020年度から本格的な学生募集を開始した。 ● 大学院では、商学研究科、経済学研究科、国際関係学研究科にてEトラックを設置している。 ● 春・秋二回の入学受入を行う態勢とし、2023（令和5）年10月時点で、世界76ヶ国から1,596人の学生が在籍している。 ● Eトラック推進のため、教員組織の強化に加え外国人職員の採用等事務局体制の強化にも取り組んでいる。 ● ベトナム、インドネシア、タイに現地事務所を開設する等、世界各国からの学生募集に積極的に取り組んでいる。
--	---

② グローバル・ティーチング・インスティテュート（GTI）事業展開

実施事項：	英語ネイティブ語学教員組織グローバル・ティーチング・インスティテュート（GTI）による英語教育強化。
事業内容：	● GTI所属英語ネイティブ教員は約50名の体制。 ● 活動対象は言語コミュニケーション学部に限らず、Eトラック、国際関係学部、経済学部の英語教育も担当している。2018年度（平成30年度）には、人間社会学部のグローバルスポーツ・プログラムの担当もスタートした。 ● 65分週3回、1クラス10人前後の米国型語学教育を導入し、英語スキルの向上に取り組んでいる。 ● 川越キャンパス・池袋キャンパスともに英語専用ラウンジを設置、ネイティブ教員を常駐させ、授業時間以外でも英語力鍛錬可能な環境を整備している。

③ ジャパニーズ・ランゲージ・インスティテュート（JLI）の事業展開

実施事項：	日本語教育組織ジャパニーズ・ランゲージ・インスティテュート（JLI）によるEトラック学生の日本語教育強化。
事業内容：	● Eトラック学生の日本語スキル向上のため、日本語教育組織JLIを設置している。 ● JLIは、Eトラック及びジャパン・スタディーズ・プログラム（JSP）在籍学生の日本語教育を専担する。

④ アメリカン・スタディーズ・プログラム（ASP）の充実

実施事項：	ウィラメット大学で開講されるアメリカン・スタディーズ・プログラム（ASP）を本学の旗艦留学プログラムと位置付け、GTIによる教育との連動等教育効果の向上を図っている。
事業内容：	● 創学以来の姉妹校ウィラメット大学（米国オレゴン州）にて開講されるASPには、これまでに約3,300名の学生が参加し、毎年約1年間の留学を経験している。GTIにおける教育とも連動させ、本学グローバル化教育の柱となっている。 ● コロナ禍により一時中断していたが、この機会にプログラムを再構築し、2023（令和5）年1月に再開した。

(3) 建学の精神「公德心を体した真の国際人の養成」に立脚した教育・啓蒙活動の推進

① 日本文化研究所主催の教育・啓蒙活動の推進

実施事項：	日本文化を核とした国際人養成教育・公德心教育の展開。
事業内容：	● 「日本の文化と世界」を共通テーマとする講演会を例年開催。2023年度はコロナ禍で開催を見送った。

② 国際シンポジウムの開催

実施事項：	第11回国際シンポジウム「日本と世界 Part8」を開催。
事業内容：	● 高村正彦元外務大臣、ハーバード大学ジョセフ・ナイ特別功労教授、東京大学先端科学技術研究センター小泉悠専任講師による講演・パネルディスカッションを実施。現在の世界を取り巻く情勢について活発な議論が交わされた。

(4) キャンパス内外におけるジェネリック・スキルの涵養

① 文部科学省「地（知）の拠点整備事業（COC）」

実施事項：	「小江戸かわごえ」グローバル人財育成による「まちおこし」プログラム。
事業内容：	● 文部科学省「地（知）の拠点整備事業（COC）」に採択

	されたことを契機に全学的に取り組んでいる。 ● 地域でのフィールドワークやインターンシップ等、多様な体験型学修を組み込んでいる。 ● 地域を越えたまちづくりコンテストにも積極的に参加、コンテストでの受賞にもつながっている。
--	---

② 国際関係学部「観光立国プログラム」

実施事項：	JTB総合研究所との産学連携による、「観光立国プログラム」の拡充。
事業内容：	● JTB総合研究所の実務家を招き、観光に関する実践的教育コンテンツを整備。 ● MICE産業論や、JTBグループと連携したインターンシップ等、先端的・実践的プログラムを設置し、「観光立国」を担う人材の育成に取り組む。

③ 学生スタッフ成長プログラム

実施事項：	大学内で働く学生を計画的に育成していくことにより、学生の力を大学で活用していくとともに学生自身の就業力を強化する。
事業内容：	● 大学生生活デザイン演習の授業サポートを担うスチューデントファシリテーター（SF）を拡充し、対面授業およびオンライン授業に対応している。 ● また、キャンパスのグローバル化推進に学生スタッフを全面的に巻き込むため、スチューデント・リーダーシップ・インターンシップ（SLI）も推進、英語専用라운ジの運営等に中核となって参加している。 ● 学生スタッフを育成し活用していくために「学生スタッフ成長プログラム」を継続実施。SFやSLIメンバー、オープンキャンパス・スタッフ等が参加し、Jトラック・Eトラックの学生交流の場としても機能している。 ● ジュニア・ミドル・トレーナーという3段階のレベルを設定し、能力向上を促進している。

2. 卒業後進路の開発

(1) 就職支援体制の強化

実施事項：	就職先マッチング態勢の強化、スポーツ系クラブ学生へのサポート、Eトラック学生への就職支援体制拡充。 オンライン化にも迅速に対応。
-------	--

事業内容：	● 就職先マッチングを専門に行うカウンセラーを配置。 ● 体育会学生に対しては、スポーツ関連企業等その特長を活かした進路を選択し、専門のカウンセラーがサポートする体制を敷いている。 ● Eトラック学生に対しては、一年次から就職ガイダンスを実施、日本企業への就職にむけた心構えを植えつけていく。また、インターンシップ・プログラムも拡充している。
-------	---

(2) 教職支援センターの設置による学生サポート強化

実施事項：	教員志望の学生に対する情報提供、教員採用試験受験の支援のため教職支援センターを設置。
事業内容：	● 教育行政に永年勤務経験を持つ指導員が常駐。 ● 教員採用試験に関する個別相談、教員採用に関する情報・資料提供、教員採用試験に関する対策講座等の開催、「教職支援セミナー」の開催等。

3. 施設・設備の整備

(1) 池袋キャンパス開設

① 概要

設置プログラム、学部等	経済学部、国際関係学部、言語コミュニケーション学部を中心に川越キャンパスより移転。商学部に関しても一部コースを開講。	
校地	地区名	豊島区造幣局地区（市街地 A 画地）
	所在地	東京都豊島区東池袋四丁目 3277 番 202 の一部
	地積	10,000.05 m ²
	階数	地上 22 階
校舎	延床面積	約 35,000 m ²
	工期	2020 年 11 月～2023 年 5 月
	開校	2023 年 9 月

② 機関決定の経緯

2013 年 5 月 29 日	理事会にて「都市型国際キャンパス」の構築を決議
2017 年 7 月 3 日	理事会にて「都市型国際キャンパス」用地取得及び校舎建設について決議
2017 年 10 月 23 日	理事会にて豊島区造幣局地区（市街地 A 画地）土地譲渡契約の締結を承認
2017 年 11 月 7 日	独立行政法人都市再生機構との間で土地譲渡契約を締結
2018 年 1 月 12 日	理事会にて池袋キャンパス建設に係る設計・監理契約の締結

	を承認
2018 年 4 月 9 日	理事会にて池袋キャンパス収容定員構成計画及び学部入学 定員中期拡充計画を決議

2-(3) 東京国際大学付属日本語学校

I. 2023 年度の事業の概要

COVID-19 が沈静化し各国往来の回復とともに、本校入学志願者数は順調に増加し、コロナ前の 76.3%まで回復した。入学者確保のために既存チャネルのみならず新規開拓を行った結果、コロナ前と比較してネパール・ミャンマーなどが増え、入学生の国籍が多様化した。

また出入国在留管理局より本校が 2023 年 10 月に『適正校（クラス I）』に選定され、在校生の在留資格管理の適切性が証明された。これにより、2024 年度の入学者の在留資格認定証明書（COE）交付の優位性が担保され、質の良い学生を確保できる基盤ができた。

日本語教育に関してはコロナ前と同様なカリキュラム、対面授業、進路支援、学外授業（歌舞伎鑑賞など）、課外活動（茶道、華道などのクラブ活動）、各種イベント（TIU インターナショナルフェスティバル引率、大相撲トーナメント引率など）が完全復活、「進学に強い日本語学校」を堅持するため、学生一人ひとりに目が届く丁寧な教育と親身な学生支援を実践するとともに、日本文化に触れる機会を提供した。

一方、本校から TIU への進学者を増やすために、在校生および新入生に対する説明会を通して TIU の魅力を発信。2 月には TIU 池袋キャンパス見学ツアーも実施した。

II. 事業項目

1. 正規課程 入学者数実績

課 程	日本語教育課程 A	準備教育課程※	日本語教育課程 B
授業時間	全日制(週 26 コマ)		半日制(週 20 コマ)
入学時期	4 月 (1 年コース) 56 人		4 月 (1 年、2 年コース) 47 人
就学期間	7 月 (1.9 年コース) 13 人		
	10 月 (1.5 年コース) 52 人		10 月 (1.5 年コース) 41 人
合 計	209 人		

※準備教育課程：高校修了まで 12 年を要しない国の学生を対象として、日本の大学入学資格を与えるための、文部科学省の指定を受けた課程。2023 年度入学者数実績 4 月期生 1 人、10 月期生 2 人、計 3 人。

2. 正規課程 国別入学実績

2023 年度	台湾	韓国	ベトナム	ミャンマー	ネパール	フィリピン	インドネシア	マレーシア	その他	合計
4 月期生	42	23	10	1	7	8	2	1	9	103
7 月期生	10	1	0	0	0	0	1	0	1	13
10 月期生	35	9	10	11	10	3	3	2	10	93
合 計	87	33	20	12	17	11	6	3	20	209

3. 短期聴講 (1 か月～3 か月)

・入学者数実績

	4 月期生	7 月期生	10 月期生	1 月期生	計
入学人数(人)	8	29	14	4	55

4. 日本語能力試験 (JLPT) 合格率

	JLPT 合格率(%)	N1	N2	N3
2023 年度第 1 回 (7/2)	本校	71.4	57.1	73.1
	全国平均	32.2	35.0	42.4

2023 年度第 2 回 (12/3)	本校	35.7	67.3	62.2
	全国平均	27.8	33.7	32.0

5. 進路指導

・進路状況 (進学率： 55.5 % (大学院・大学・専門学校))

2023 年度	台湾	韓国	ベトナム	フィリピン	香港	マレーシア	ロシア	その他	合計
大学院	3	0	0	0	0	0	0	0	3
大 学	5	5	6	0	2	2	2	6	28
専門学校	19	10	3	4	2	1	0	1	40
就 職	4	1	2	1	1	0	0	0	9
帰 国	18	3	2	2	2	0	1	3	31
その他	12	2	0	1	0	0	0	2	17
合 計	61	21	13	8	7	3	3	12	128

・進路ガイダンス

(2024 年度入試対象学生向け)

2 月 「第 1 回日本留学試験」受験促進

4 月 EJU 試験科目と「EJU 対策講座」紹介

6 月 校内進路説明会フォローアップ、オープンキャンパス活用方法

8 月① 夏期休暇中に行うべき受験準備

8 月② 指定校推薦の学校紹介と出願方法説明

(2025 年度入試対象学生向け)

11 月① 受験スケジュール概要説明

11 月② 大学受験に必要な日本語以外の基礎科目選択について

・校内進路説明会・相談会(オンライン、対面併用)実施 7 月 5 日

大学：5 校、専門学校：9 法人(14 校)参加

・進路相談室通信(No. 24～No. 25、不定期発行)

6. 告示基準第 1 条第 1 項第 4 号(各年度の課程修了の認定を受けた者について)関係報告

課程修了者の日本語能力習得状況等	基準適合性
第 44 号：大学等への進学者，入管法別表第 1 の 1 の表若しくは第 1 の 2 の表の上欄の在留資格(外交・公用及び技能実習を除く。)への変更を許可された者及び C E F R ・ A 2 相当以上と認められる者の合計が、課程修了の認定を受けた者の 7 割以上	○

基準該当者割合 ②÷ (①+③)	81.3%
課程修了者数 (※ 1, ※ 2) ①	117
基準該当者合計数 (実人数) ②	109

左記「基準該当者合計数(実人数)」のうち退学者数(4 4 号ただし書き) ③	17
--	----

※ 1 退学者は含めない。

※ 2 各年度の課程修了の認定を受けた者が，その修了日までに入管法別表第 1 の 1 の表若しくは第 1 の 2 の表の上欄の在留資格(外交，公用及び技能実習を除く。)への在留資格変更許可申請をした場合において，当該申請に対する処分が，この号に基づく地方出入国在留管理局への報告までになされないときは，当該者を分母となる課程修了認定者の数に該当する者として加える必要はない。

2-(4)-一橋学院早慶外語

I. 2023（令和5）年度事業の概要

創立72周年を迎えた2023（令和5）年度も、「いちばん行きたい大学へ。」のスローガンのもと、少人数制授業を展開し、講師は質問や添削等のサポート、担当チューターは生徒や保護者の希望を尊重しながら大学進学までのフォローを行った。

18歳人口減少の中、コロナ禍が重なり、映像やオンラインで授業を行う塾・予備校が乱立するなど厳しい環境が続くが、一人ひとりの希望実現に向け教職員が一致団結して指導にあたっている。

II. 事業項目

1. レギュラー授業

(1) 高卒生コース

総合予備校として、国公立大文系、国公立大理系、私立大文系、私立大理系の各系統で難関大学をはじめとする各自の希望の大学に応じたクラスを設置した。

(2) 高校生コース

単科で受講できるように配慮しながら学力レベルに応じた講座を設置し、高3生を対象とした東大・一橋大プライムゼミ等の難関大向けの授業や、基礎学力を養成するドリル形式の講座（「個別演習トレーニング」）等も組み入れ、受験を迎える生徒のさまざまな「個」のニーズに答えている。

(3) メディカルコネクト

2019（令和元）年度に新たに医学部専門予備校として開校した「一橋学院メディカルコネクト」は5年目を迎え、生徒数も堅調に増加した。

高卒生ではレギュラー授業以外にも、個別指導やコーチングなどの事業を展開した。また、高校生は単科で受講できる授業を設置した。

担当チューターが個別学習計画の管理など、少人数制の特性を活かしたきめ細かな指導を継続的に行之、今年度も高い合格率を実現した。

2. 講習会

(1) 「春期講習」

総講座数33講座。4月からの予備校選択と、早期の基礎的な学力養成のためにコンパクトな講座を主体に編成した。また、メディカルコネクトでは4月から始まるレギュラー授業の準備として、英語、数学、化学の主要科目を設置した。

(2) 「夏期講習」

総講座数83講座。「前期の総まとめ」や最新の入試問題に触れる機会として、志望大学別・レベル別講座を設置し、受講生のニーズに合う講座を編成した。また、新規入学者の2学期募集という側面も有した講座設置を行った。一方、メディカルコネクトでは医学部で狙われやすい単元を重点に授業を行った。

(3) 「冬期講習・直前講習」

総講座数99講座。高3・高卒生に対して、共通テスト対策および私大・2次試験向けの志望校別対策を中心に講座を編成した。高1・高2生に対しては、早期の大学受験対策としてアピールすべく実施した。また、メディカルコネクトでは大学別受験対策講座を設置し、それぞれの大学の特徴を捉えた授業を行い、受験生を合格させるべく指導を行った。

3. 合格実績

国公立大では、東京大、一橋大や旧帝国大などの難関国公立大への合格者数を堅持し、私立大でも早稲田大、慶應義塾大をはじめとする難関私立大で昨年対比において向上するとともに、医学部に並ぶ難関学部である獣医学部での合格者が急増した。

一方、一橋学院と比してもさらに徹底した少人数制指導を行うメディカルコネクトについては、受験人数が絞られる中でも、今年度は最難関5大学（東京慈恵会医大、慶應義塾大、順天堂大、日本医科大、昭和大）のうち、順天堂大、昭和大への複数合格を達成した。

Ⅲ. その他

- (1) 校外に向けた予備校の周知を行うために、次の事業を展開した。
 - (i) 大学フェアでの講演（3月・5月）
 - (ii) 医学部合同説明会への参加（セミナーや個別相談など）
 - (iii) 高等学校での講演会や出張授業等
- (2) 変容する大学入試に対処すべく次年度に向けてカリキュラムを改定した。
- (3) 施設設備として、経年劣化が目立つ空調設備の全熱交換機の総入れ替えを実施した。